

令和4年度（2022年度）第5回みなみ野中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日 時	令和5年（2023年度）1月28日（土） 9：30～12：00
場 所	みなみ野小学校2階 家庭科室
出席者	参加者：荒井、大倉、大福、大淵、大山、川崎、佐藤、田谷、橋山、山城 社会福祉協議会：大和 第一層生活支援コーディネーター：今泉 八王子地域 PAL-ETTE：守屋、段野 未来デザイン室：野田、橋本 エックス都市研究所：田中、橋爪、高橋
見学者	みんなの居場所づくりプロジェクト 縁楽結 代表：遠藤 助産師：小井戸 創価大学 学生：吉澤、高羽、塚本 北野事務所長：水越
配布資料	第5回みなみ野中学校区地域づくり推進会議資料 アクションプラン思案シート 第4回みなみ野中学校区地域づくり推進会議議事概要（案） 前回ワークのまとめ

1 開会

未来デザイン室より挨拶。

2 議題「アクションプランの柱を考えよう」

（1）グループワークの係決め

会議資料をもとに、前回のみなみ野中学校区地域づくり推進会議での取組の振り返り、今回の話し合いの進め方について確認し、今回の進行役（ファシリテーター）を選出した。

進行役：荒井氏 ※板書係は事務局が務めた。

（2）アクションプランの柱及び取組内容の検討

会議資料をもとに、今回の検討内容について確認し、アクションプランの柱の検討を行った。なお、前回と同様に1グループで検討を行った。検討結果は、以下のとおり。

<検討結果>

1) 主な意見概要

- ・キーワードとして、「まちの全世代が集まれる場所」があると思う。
- ・「地域のお祭りの復活」を行いたい。
→まちびらきをした当時は駅前で行っていた。
- ・キーワードとして、「散策路づくり」を考えた。10分から1時間程度、体力づくりや健康づくりなど様々な目的に使える散策コースを作りたい。

- ・キーワードとして、「音楽」を考えた。学校の施設を活用し、吹奏楽クラブの演奏会等を開けると良い。各小・中学校で演奏会を開催し、地域住民が各学校を周回し鑑賞するようにすれば、小・中学生が行っていることを、地域住民が知る機会になる。
- ・キーワードとして、「コミュニティ」を考えた。誰もが暮らしやすいまちを作りたい。小・中学校の多目的教室などを開放し、地域の誰でも気軽に集まれる場所を作りたい。そこで、ボランティアのような人材を募集し、カフェや商品を販売するのも良い。
→様々な人が集合する場所が必要。
→デイサービスを提供する高齢者施設は、夜間空いていると思う。時間帯や曜日によって、空いている場所を見つけ、提供してもらうのはどうか。例えば、みなみ野病院の集会所や日野自動車のホールは一般開放されている。
→のま小児科は、駐車場が空いている時間を自由に使用することが可能なようだ。将来的に子どもを集めた体操の講習会や、不登校の子が自由に来られる場所として活用したい。
- ・最近分譲住宅地としてリトヒルズができたことから、子育て世帯の転入が多い。医療機関や安心して子どもを預けられる場所、相談できる場所などを周知できると良い。
- ・地域カルテをさらに深堀して、アピール度の高いものにしたい。住民が必要な情報を掲載できると良い。
- ・「子育て」というと乳幼児をターゲットにしがちだが、不登校の子どもたちも相当数いる。市民センターみなみ野分館のプレイルームは利用率が低いと聞いたので、スペースを分け、乳幼児より上の年齢の子どもも利用できる場所をつくと良いのではないかと。また、子ども家庭支援センターにも乳幼児用の場所があるため、そちらも併せて検討したい。
→市民センターみなみ野分館のプレイルームは確かに空いている時間が多いが、これは住民に対する周知が足りていないからなのかもしれない。
- ・不登校の子が学校に行くことはハードルが高いため、学校以外の居場所があると良い。
- ・すべての世代が一堂に会する場所を今すぐ作るのは難しいと思う。世代ごとに集まれる場所を作ることから始めるべきではないか。
- ・みなみ野は人材豊富な街だと思う。人が集まれる場所を探しつつ、どういった人たちが集い、どういったことが出来るかを検討したい。
- ・困ったときに頼れる場所があると良い。
- ・多世代の居場所づくりや居場所をつなぐ散策路づくりのために、既存公園を改良することなどができると良い。
- ・幼児の各発達段階によって必要な遊具等は変わる。複数の世代が遊べる公園があると良い。
- ・市民センターみなみ野分館は混雑しているが、常に全てが使用されているというわけではないと思う。空いている場所を子どもが自主学習できるスペースとして利用できれば良い。現状、みなみ野で自習をする場合、カフェを利用するしかない。
- ・キーワードとして、「シニア」を考えた。高齢者がこれからどう生きるのか、高齢者の居場所についても検討したい。多世代で交流できる場所があると良い。
→みなみ野は公園がたくさんあるため、公園を多世代の居場所にすることが出来るのではないかと。

- ・シニアは時間がたくさんあるので、取組をするうえでシニアクラブや町会と連携をするのはどうか。
- ・キーワードとして、「自然」を考えた。みなみ野中学校区内には、大きな公園が3つ、小さな公園が5つあるので、「花と緑の公園づくり」や「散策したくなる場所づくり」ができると良い。八王子市には市の木（イチョウ）や花（ヤマユリ）があるので、それらを育て地域の見どころをつくる取組も良いのではないかと。
→地域を散策して花や木を見ることで、近隣住民の交流が促進できる。
- ・「子育て」「教育」「コミュニティ」をキーワードに取組を行うとしても、取り組む場所がないと実行できない。世代を越えた人の流れを作り、活性化ができると良い。
- ・赤ちゃんから高齢者まで、各世代の様々なニーズを一度振り返ってみる必要がある。
- ・市の高齢者会議では、「認知症」が大きな問題となっている。認知症になる前に、どれだけケアをするかが課題である。公園は、子どもと高齢者の接点ができる場所なので、散歩道を作ることやベンチを設置することで交流が生まれると良い。例えば、高齢者が使用する健康遊具の横に、幼児の遊具を置き、交流が生まれるようにすることなどである。
→健康年齢をなるべく伸ばす工夫を、地域ぐるみで取り組めると良い。
- ・「福祉」、「子育て」、「自然」が、みなみ野のキーワードになるのではないかと。既存の施設を活用すること、ダイヤモンド富士や桜の名所があることなど、季節ごとのみなみ野の見どころをアピールできると、年間を通して楽しめるまちになるのではないかと。
- ・以前、高齢者サロンで行われたスマホ講座にアルバイトとして参加し、居心地の良い場所だということを知った。学生はメリットが無いと地域活動へ参加はしないため、アルバイトという形をきっかけに、地域活動に参加することが楽しいと感じてもらえるのも良いのではないかと。
→施設の空き部屋やフリースペースがみなみ野にどのくらいあるのかを学生と一緒に探してみたいが、学生をアルバイトとして雇う費用がなく、ボランティアでしかお願いできないのがネックである。助成金などを利用して、取り組んでみたい。
→お金の問題は他の取組にも通じることなので、市にまちづくりの助成金制度を紹介してほしい。
→活動を継続するためには、活動した人にある程度賃金を払う必要があると思う。
→活動中に宿泊場所を提供するなど、金銭に代わるやり方も考えられる。
→学生は金銭でなくとも、学びというニーズがあると思う。そうしたニーズをとらえて呼びかけをすれば、学生が集まってくるのではないかと。
- ・地域で一番困っている人たちは、地域の活動に参加しない。子ども食堂などを行っても、そうした人たちに来てもらえないことが多い。
→地域活動が楽しいということを知ってもらえると、次の参加につながるのではないかと。
→本推進会議で困っている全ての人に対応するのは難しいと思う。参加する人が楽しむことを基本に活動していくことが良いのではないかと。本推進会議の活動は、生きがいや楽しみになり、フレイル予防にもなる。
- ・みなみ野では、地域の子どもは地域で育てるという考え方がある。子どもを介して子育て世代が上の年代と関わることで、将来自分が通るライフステージのモデルを目にすることができ、自ら地域を守っていこうという気持ちが子育て世代にも生まれるのではないかと。

→今は、みなみ野の子ども会もなくなったが、地域の子どもを地域で守っていくモデルができると良い。これまでの子育てモデルが、今の子育て世代へプレッシャーになっていることもあると思う。地域における子育てシステムをつくっていくために、多世代が子育てに参画したり空きスペースを活用したりすることができると思う。

→自然塾でも主要な活動である自然や里山文化の保全と共に、子育ても行っている。人間には、一つの命をみんなで大切に育てていくという特性がある。その特性を活用し、地域で子育てができる仕組みを作っていきたい。

- ・キーワードとして、「出会う」、「楽しむ」、「繋がる」があると思う。楽しい場を作り、語り合えることや、健康を保てるまちの中で、それぞれの世代の人たちがいろんな楽しみを共有できる場が出来ると良い。
- ・居場所探しや取組のアイデアを検討するとともに、SNS や YouTube、ポスター掲示などで情報発信することが重要である。「居場所探し・居場所づくり」、「暮らしを楽しむアイデアづくり」、「情報発信」の3つについて、これから資金面の問題を含めて検討していけると良い。
- ・大学生と連携し、夏休みの最初と最後の週に、宿題をまとめてやりたいという子を集めて取り組むイベントもできたら良いのではないかな。

2) アクションプラン柱（案）の決定

検討結果を踏まえた、アクションプラン柱（案）を決定した。

- 1 多世代の居場所づくり
- 2 多世代の地域ニーズを踏まえた楽しむ活動の実施
- 3 みなみ野の良さの発信

3) 決定した柱（案）に基づく具体的な取組の検討

- ・取組の主な意見として、体力づくりや健康増進など多目的に活用できる散策路づくり、お祭りの復活や桜祭りなど地域資源の活用、子どもの部活動のパフォーマンスの場づくり、誰でも多世代で交流できるような居場所づくり、活動場所として学校や市民センターなどの既存施設の活用、時間帯によって使用されていない空間の発掘、地域の緑豊かな環境を活かすこととしてみなみ野の見どころづくり、シニアクラブ・町会の活性化、これらの活動の担い手である学生の参加の促進などが挙げられた。（エックス都市研究所）
- ・居場所づくりや人々のつながりづくりに、八王子野菜を地域資源として使えるのではないかな。住民同士だけでなく、農家とのつながりもできる。
- ・七国に近いみなみ野のログハウスには駐車場があり、イベントに使える。
- ・サロンみなみ野では、高齢者の健康増進につながる活動を補助金等の資金なしに行っている。
→60代後半になると、健康を保ちたいというニーズが生まれる。
- ・「散策路づくり」は、「地域のアピール」として行うのか、「居場所づくり」として行うのか、それともそれらを複合した目的で行うのか。（エックス都市研究所）
→目的には、それらすべてを含んでいる。健康や散歩する人達の居場所、余暇を楽しむなど様々な目的があって良いと思う。

- ・「散策路づくり」の際には、「発信」の観点から見栄えが良い風景の写真を活用することや Youtube などでの発信も効果的である。
- ・「散策路づくり」に、「発信」に取り組むメンバーを含め、アイデアを重ねて取り組めれば良い。一つのプロジェクトをみんなで作ると、多世代交流にもつながると思う。
- ・兵衛川沿いの桜祭りをみなみ野の一つの行事にし、人が集まる場所にしたい。
- ・学校の吹奏楽部は、新型コロナウイルスの影響により本番がなくなってしまった。そのため、目標がなくなり、活動のモチベーションが下がることがあった。先のアイデアにあったように、地域からの演奏依頼があると、活動のモチベーション向上につながると思う。住民や高齢者がコンサートを鑑賞することで、元気や希望を持てたりするので、学生と地域住民で win-win の関係になるのではないか。
- ・散策路でコースごとに何キロカロリー消費するかがわかると、ダイエット効果があるとして、若い人も興味を持つと思う。
- ・自分たちが楽しむアイデアを検討することで、自分たち以外の人も楽しめるきっかけづくりになるかもしれない。そのためには活動できる場所が必要であり、既存の施設を使えると良い。

3 議題「次回の検討にむけて」

会議資料をもとに、事前ワーク、自主活動の内容及び第 6 回会議の進め方について確認した。検討結果は、以下のとおり。

<検討結果>

1) 事前ワークについて

- ・事務局がこれまでの意見をまとめ、中間とりまとめの案を作成する。その案に対して当日までに修正点を各自で検討。
- ・本日の柱を念頭に置きつつ、具体的な取組のアイデアを検討。

2) 自主活動について

予定する自主活動及び中心となっていた方々は、以下のとおり。

- ・発信方法：荒井氏
- ・散策路づくりと居場所づくり：大淵氏、佐藤氏、大倉氏
- ・人生100年プロジェクト：川崎氏

自主活動の詳細が決まったら事務局に情報提供してもらおうとともに、興味がある自主活動がある方は事務局に申し出てもらうことを共有。

3) 第 6 回会議の進め方について

- ・事務局が作成した中間とりまとめ（案）に対する意見を収集し、仮置きとなっている将来ビジョン等の見直しを行う。その後、「散策路づくり」や「発信」など、取組を具体化していく。

4 情報交換「みんなにシェア・みんなでシェア」

1) 縁楽結（えんじょいん）について

- ・様々な世代の人が集まって、楽しみながら生活できる居場所をつくるため任意団体を結成した。
- ・1月29日(日)は、保育園の虐待についてクローズアップし、どういうことが虐待に当たるのか、実情はどうかなどを自由に語れる企画を行う。
- ・縁楽結の活動場所は、小井戸氏の助産院「ほっこりハウス」、駅徒歩3分程度のアパートの一室である「CoCo chan cafe」、のま小児科内の「ほのぼのルーム」である。いずれも広くはないが、地域の人に楽しんで自由に使ってもらいたいと考えている。
- ・みなみ野では子育て世帯や核家族が多いため、今後は子育てを理由に自分のキャリアをあきらめる人がいなくなるような支援を行っていきたい。

2) サロンみなみ野について

- ・サロンみなみ野では、共に支え合う場として、毎月1回、第二木曜日の10時半～12時に運動等の活動を行っている。場所は、市民センターみなみ野分館の会議室で、飲み物代として100円徴収している。ぜひ参加してほしい。

3) 地域づくりの周知について

- ・本日(1月28日)15時から、学園都市センターで地域づくりフォーラムを開催する。御都合が合う方はぜひ参加してほしい。
- ・地域づくりの取組を情報発信するため、明日(1月29日)から市の公式YouTubeで紹介動画を配信する。
- ・3月1日に市広報で地域づくり特集号を発行する。ぜひご覧いただきたい。

5 閉会

次回の推進会議の日程等の確認を行った。

第6回：令和5年(2022年)3月11日(土) 9:30～12:00 みなみ野小学校2階 家庭科室

※第4回会議の議事概要(案)の修正があれば、2/3(金)までに未来デザイン室へ申し出てほしいことも伝えた。

以上

【アクションプラン思案シート ～柱シート～】

“ありたい姿”

【第3回検討】

<仮置き案>

集まって、つながって風の生まれるまち～人や自然が循環する八王子みなみ野～

アクションプランの
アイデアキーワード

【第4回検討】

既存の活動を活かす／施設のオープン化／多目的な散策路（ハイキング、写真、俳句、絵画）
／子育てしやすい施設の再定義、学生・企業との連携、農作物を軸とした活動など

公園など
子どもと高齢
者のつながり

福祉、子育て
自然がキーワ
ード

キーワード

コミュニケーション

- コミュニティ
コミュニケーション
- 学校などの
既存のものを活用
- 空いている場所を
みつけて活用する
- 駐車場で自由に遊
べるところもある
市民センターも空
いていたら使える
- 自習できる場所が
少ない
→空き場所がほし
い
- 空いている空間
の活用が難しいと
ころもある

子ども・不登校

- 音楽
→設備は学校
のものを使用
- 子ども達のパ
フォーマンスを
見て周る
- 医療とつながり
安心して子供
が預けられる
場所を
- 乳幼児だけでな
く、さらに上の年
齢の子供たちが
使えるように
- 子どもの発達段
階でほしいもの
変わる
- 不登校の子が
学校以外に集
まれるところを

人材

- 学生を町のアル
バイトに
→交流や居場
所づくりに
- 運営で学生を
活用する
- 活動を行うため
の資金を得る
→活動の継続
- 全ての世代が集ま
る場所は難しい？
→各年代の集まる
場所を
- みなみ野は
人材が豊富
- ボランティア
を募集
- 人材の質が
重要
- フリーで使え
る場所を学
生と共に作る

自然

- 自然
- お祭りを復活
させたい
- 散歩コース
ウォーキング
健康

高齢者

- 高齢者がこ
れからどうや
って生きるか
- 高齢者と子供
が交流
- フレイル予防
になる
- 健康年齢を
延ばす
- 高齢者は時
間があるが
- 移動が難しい

つながる

- 地域が
つながらない
- 今のままだと
バラバラになる
- 安心できる
- 出会う、楽し
む、つながる
- 楽しみがある
場

- 各団体における
定義が違う
→住み分ける
- ・自然塾→子ども
との交流
- ・緑の会→自分
たちが楽しむ
⇒場所や使い方
が色々ある
- 多様性が大事

自然活用

- 地域内に公園
が3つ、小さい
公園が5つある
- 花と緑の公園
づくり
- 花を育てることが
少なくなっている
→八王子らしさが
もっとあると良い
- 市の花、市の木
がある
- 高尾山がある
- 散策したくなる
場所づくり
- 公園のイベント
で子供が参加
していない
- 子ども達と先生
の交流が生ま
れる

人材

- 多世代交流の力
ぎは学生
- 学びのニーズが
ある
- 一番困っている
人たちは来ない
→手が届かない
- 楽しいと思える
ことができると継
続して出てくれる
- サービスに関わ
る人の選択・質
が、そのサービ
スの継続性を左
右する

広報

- アピールで
きるポイント
の深堀
- みなみ野を年
間通して楽し
めるところに
- 八王子・みなみ
野の良いところ
をアピール

活動

- 活動にはお金が
かかる
→ボランティアで
はなくアルバイト
- なんでもボランテ
ィアに頼ってはい
けない
- 補助金・助成金
制度は色々ある
- 病院への移動に
もお金がかかる
- 祭りの復興で学
生を住民の家に
泊める
- デイサービスの
夜間に学生が泊
まる→高齢者と
学生が交流する

子育て

- 子育ても教育も
場所がないとで
きない
- 学校の不登校
の子が集まる
のは難しい
- 子育て環境の
充実
- 空き場所を本
当に使えるか
不安

フレイル

- 認知症が大き
な課題になって
いる
- 高齢者のサロン
→学生が居心
地良い
→憩いの場に
- 健康でいられる
場所

アクションプランの柱

場

・健康
・安心、安全
・ふれあい



居場所
さがし

居場所
をつくる

活動

地域のニーズ
を掘り起こす

楽しみを
つくる

参加できる
プログラム

楽しむアイデア
を出す

みなみ野の
良さをアピ
ール

情報の発信

発信していく
SNSなど

若い力を借りる
追加してみは
どう？

【アクションプラン思案シート ～取組シート～】

発信のためのプロジェクト

立ち上げ
↓
自主活動

今泉さん事例
高齢化の進む
団地

夏まつり
→学生さんを自宅
に止めてあげた

大学のフィールドワーク
デイの活用、7泊8日
→清掃してもらう

親を引き出すこと
につながる

<仮置き案>

集まって、つながって風の生まれるまち～人や自然が循環する八王子みなみ野～

既存の活動を活かす／施設のオープン化／多目的な散策路（ハイキング、写真、俳句、絵画）
／子育てしやすい施設の再定義、学生・企業との連携、農作物を軸とした活動など

“ありたい姿”

【第3回検討】

アクションプランの
アイデアキーワード

【第4回検討】

(仮) 取組名・概要

取組の対象

場所・機会

